

**成熟社会の共感再生ビジョン『余白を楽しむパブリックライフの浸透』**

- 都市に将来の可変性・柔軟性を許容する「余白」を残すことで、パブリックスペースにおける多様な活動を創出する視点を重視。
- ウォーカブル政策とほこみち・交通政策との連携、民地も含むパブリックスペースの更なる利活用、事業初動期の準備段階の充実を促進。

**「ワーキンググループ」の4つの検討テーマと提言****【テーマ①】パブリックスペースの利活用による収益と公共性の考え方**

- ✓ 官民所有のパブリックスペースの利活用による収益を幅広いエリアマネジメントの活動に充当していく上での公共性の整理方法や要件を検討

**『活動内容と資金の流れの「見える化」と公共性の担保』**

- パブリックスペースの利活用による地域全体への波及効果の共通認識や相互理解を図るため、パブリックスペースの利活用等のエリアマネジメント活動における活動内容と資金の流れを「見える化」とともに、活動内容の公共性を担保する仕組みが必要ではないか
- 関連して、各パブリックスペースに関する既存制度について、運用の再整理・周知を図るべきではないか

**【テーマ②】パブリックスペースの利活用の推進に向けた支援等**

- ✓ 地域の課題解決やエリア価値の維持向上等に資する公共的な活動を行うエリアマネジメント団体の負担軽減策としての措置、要件、プロセスを検討

**『パブリックスペースの利活用促進に向けた支援強化』**

- 各公共空間において規定された特例占有に係る地域への収益還元における制度や運用について、さらなる周知が必要ではないか
- パブリックスペース利活用の推進に向けては、エリアマネジメント団体及び行政へのさらなる支援の充実が必要ではないか

**【テーマ③】パブリックスペースの利活用における手続きの円滑化**

- ✓ 公物管理者が異なる場合に、関係者が参画する協議会により手続きの円滑化を図る手法や要件を検討
- ✓ 同一エリア・路線で特例制度を活用・切り替える場合において手続きの円滑化を図る手法や条件、留意点を検討

**『ワンストップ窓口、官民連携の協議の場の構築』**

- 市区町村のワンストップ窓口の設置にあたっては、民間まちづくり団体と連携のもと、対象を特定のエリアや施設等に限定しつつ試行的に取り組むなど、まずは、対応可能な範囲から始めることが重要ではないか
- 手続きの円滑化を図るため、都市再生推進法人の活用や公物管理者を含めた官民連携の協議の場（市町村都市再生協議会の活用など）が必要ではないか

**【テーマ④】パブリックスペースにおける制度連携**

- ✓ パブリックスペースの利活用の推進に向けた更なる連携方法を検討
- ✓ 地域資源の保全活用のための効果的な都市交通施策やその施策の実効性を高めるための工夫について検討
- ✓ 地域の個性を踏まえ、地域資源の保全活用とウォーカブル空間の整備の連携方法を検討

**『ウォーカブル政策とほこみち制度・駐車場・交通施策の連携』**

- ウォーカブル推進に関わるパブリックスペースの利活用の推進に向けて、制度間連携や予算の重点化の検討を進めることが重要ではないか
- 行きたくなる地区、居心地のよいエリアを検討するにあたり、地区レベルでの交通や駐車場、物流対策等を含めた人中心の交通戦略の検討も必要ではないか